

令和5年度環境とやま県民会議 事業報告

1 活動方針及び統一活動

私たちは、廃棄物などの身近な問題から、地球温暖化やプラスチックごみによる海洋汚染などの地球的規模の問題に至るまで、複雑かつ多様な環境問題に直面している。これらの環境問題に適切に対応し、本県の素晴らしい環境を次の世代に引き継ぐためには、私たち一人ひとりが、様々な環境問題を自分の問題として捉え、自らライフスタイルや事業活動のあり方を見直すなど、問題の解決に向けて行動を始め、その輪を広げていくことが求められている。

こうしたことから、当県民会議は、「脱炭素・循環型社会づくりの推進」及び「環境教育・環境保全活動の推進」を柱とし、県民、事業者、民間団体、行政が情報を共有し、一体となって各事業を展開した。

とりわけ、富山県が目標とする「水と緑に恵まれた環境が保全・創造され、人と自然が共生しながら、持続可能でウェルビーイング（真の幸せ）が向上した社会」の実現に向けた活動を積極的に展開するとともに、統一活動として「とやまエコ・ストア制度」の普及・拡大や、とやま環境フェアなど各種イベントの開催・参加を推進し、県民のエコライフの定着・拡大を図った。

また、2050年カーボンニュートラルの実現に向け、適時適切な手段を選択しつつ、富山県のさらなる成長につなげるため、足下から2030年度までに実施すべき取組みを描くものとして、令和5年3月31日に策定された「富山県カーボンニュートラル戦略」を基に取組みを推進した。

2 事業内容

(1) 脱炭素・循環型社会づくりの推進

<脱炭素社会づくり>

① カーボンニュートラルの普及促進

県民や事業者等の行動変容のきっかけを創出し、カーボンニュートラルの意義や必要性に対する理解促進を図った。

ア 「とやまカーボンニュートラルポータル」を活用した情報発信

- ・主 催 富山県、市町村
- ・実施時期 通年
- ・内 容 県と15市町村が共同で運営するポータルサイトにおいて、県民や事業者を対象に、カーボンニュートラルの具体的な取組み方法や国・県内自治体の支援制度等を情報発信した。

イ カーボンニュートラル推進月間の展開

- ・主 催 富山県、市町村、環境とやま県民会議、(公財)とやま環境財団（富山県地球温暖化防止活動推進センター）
- ・実施時期 令和5年10月

- ・内 容 新たに10月を「カーボンニュートラル推進月間」に設定し、富山県全域で統一的な啓発を実施し、カーボンニュートラルの実現に向けた機運の醸成を図った。

ウ カーボンニュートラル地域リーダー育成講座の開催

- ・主 催 富山県
- ・実施時期 令和5年10月25日（水）、11月23日（木）
- ・内 容 エネルギーの地産地消やレジリエンスの向上など、地域と共生する取り組みや地域に裨益する取り組みの創出に繋がるよう、企業や商工関係団体等を対象とした人材育成の講座を開催した。

② エコドライブ推進運動の実施

ア エコドライブの推進

- ・主 催 エコドライブとやま推進協議会、富山県、環境とやま県民会議、（公財）とやま環境財団（富山県地球温暖化防止活動推進センター）
- ・実施時期 通年
- ・内 容 二酸化炭素排出量の削減だけでなく、燃費向上や交通安全にもつながるエコドライブについて継続した実践を促すため、各種イベント等において普及啓発を行った。
併せて、エコドライブとやま推進協議会が募集しているエコドライブ宣言に協力し、エコドライブ実践者の拡大を図った。

イ エコドライブ実践促進事業

- ・主 催 エコドライブとやま推進協議会、富山県、環境とやま県民会議、（公財）とやま環境財団（富山県地球温暖化防止活動推進センター）
- ・実施時期 通年
- ・内 容 エコドライブ実践の一層の定着・拡大を図るため、とやま環境フェア会場における体験会の開催など、気軽にエコドライブを体験できるシミュレーターを用いた体験会を開催した。

③ 「新しい生活様式」を踏まえた公共交通利用をテーマとした県民運動への参加

- ・主 催 富山県公共交通利用促進協議会
- ・内 容 鉄軌道の施設整備及びバス路線の運航維持等を支援するなど、公共交通の維持活性化・利用促進に向けた取り組みを推進した。

④ 宅配便の「再配達削減」の普及促進

- ・主 催 富山県、環境とやま県民会議、（公財）とやま環境財団（富山県地球温暖化防止活動推進センター）
- ・実施時期 随時
- ・内 容 近年の通信販売市場の拡大に伴い、二酸化炭素排出量の増加などで社

会問題になっている宅配便の再配達を削減するため、啓発動画によるPRやモデル地区での啓発資材の配布を行った。

また、日中でも受け取り可能な職場での受取りを推進するため、お歳暮など宅配便利用が多くなる年末に、「個人の荷物も職場で受け取ろう！キャンペーン」を実施した。

⑤ 脱炭素型ライフスタイルの普及促進

- ・主 催 環境とやま県民会議、(公財)とやま環境財団（富山県地球温暖化防止活動推進センター）
- ・内 容 国が展開している国民運動『脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動』の趣旨を踏まえ、インセンティブや情報発信を通じた行動変容の後押しをする啓発を行った。

⑥ クールビズ、ウォームビズの実践及び啓発

- ・主 催 環境省、環境とやま県民会議
- ・実施時期 夏季、冬季
- ・内 容 環境とやま県民会議構成団体では、日々の気温や仕事環境等に応じて、適正な温度での空調使用と各自の判断による快適で働きやすい服装を促す「クールビズ」、「ウォームビズ」の実践を呼びかけるとともに、ホームページ等により県民等への普及啓発を行った。

⑦ 企業の脱炭素化の推進

- ・主 催 富山県、(公財)とやま環境財団（エコアクション21地域事務局、富山県地球温暖化防止活動推進センター）
- ・実施時期 通年
- ・内 容 中小企業向けの環境マネジメントシステムである「エコアクション21」制度の普及を図るとともに企業の脱炭素化を推進するためのセミナー等の開催、省エネルギー診断等の脱炭素経営の促進を図った。

<循環型社会づくり>

① とやまエコ・ストア制度普及・拡大事業

- ・主 催 とやまエコ・ストア連絡協議会、富山県、環境とやま県民会議、(公財)とやま環境財団
- ・内 容 とやまエコ・ストア制度登録事業者が県民と協働で行う環境配慮行動を促進するとともに、新たに「エコ・ストア」としてレジ袋削減、3R・プラスチックトレイの削減、転換等に取り組む事業者を引き続き募集・登録し、その活動を支援するなど、「とやまエコ・ストア制度」のさらなる普及・拡大を図り、県民のエコライフの定着・拡大を推進した。
(登録状況 65社(1,034店舗)、6商店街(令和6年3月現在))
このほか、エコ・ストア優良取組み事業所4社に「エコフェスとや

ま」の会場にて表彰式を実施した。

② 家庭系食品ロス削減対策事業

- ・主 催 富山県、(公財)とやま環境財団
- ・内 容 家庭の未利用食品を福祉団体等へ寄付するフードドライブの定着・拡大に向けて、実施団体への資器材（のぼり旗、コンテナボックス等）の貸出しや、食品提供先とのマッチング支援を行うとともに、リレー形式でのフードドライブを実施し、その結果をホームページでPRした。
また、家庭で余っている食材を持ち寄って料理するサルベージ・パーティを推進するため、本県が認定したサルベージ・サポーター（講師）と開催を希望する団体等とのマッチング支援を行った。

③ 食育全国大会普及啓発事業

- ・主 催 富山県、(公財)とやま環境財団
- ・実施時期 令和5年6月24日（土）、25日（日）
- ・内 容 本県で開催される「食育推進全国大会」に併せ、食品ロス・食品廃棄物削減に関するイベント及び啓発を行った。

④ いつでも、どこでもリサイクル促進事業

- ・主 催 富山県
- ・内 容 民間事業者等による資源物の回収拠点を認定し、住民に啓発することで、資源物回収量のさらなる増加を促進し、再生利用率の向上を図った。

⑤ プラスチックごみリサイクル支援マッチングサイト構築事業

- ・主 催 富山県
- ・内 容 廃プラスチックの排出やリサイクルに関する情報を掲載した支援サイトを構築し、排出事業者とリサイクル業者、プラスチック製品メーカーによる新たな連携を支援・促進した。

⑥ とやま環境フェアの開催

- ・主 催 とやま環境フェア2023開催委員会（富山県、高岡市、環境とやま県民会議、(公財)とやま環境財団）
- ・実施時期 令和5年10月14日（土）、15日（日）（3R推進月間）
- ・開催場所 高岡テクノドーム（富山県産業創造センター）
- ・内 容 水と緑に恵まれた富山県の豊かな環境を守るとともに、よりよい環境を創造するため、循環型・脱炭素社会や自然共生等をテーマとした各種展示や実演、発表等を行い、環境保全について啓発を行った。
- ・実 績 約12,200人（14日：約6,700人、15日：約5,500人）

⑦ 環境とやま県民会議啓発イベントの開催

- ・主 催 富山県、環境とやま県民会議
- ・実施時期 令和5年10月14日（土）（とやま環境フェア2023と併催）
- ・内 容 脱炭素社会づくり・循環型社会づくりを推進するため、功労者の表彰や取組事例の紹介等を行う啓発イベントを開催した。
小島よしおさんトークショー～一緒に海洋ごみ問題を考えよう～、うんこ先生の日本一やさしい地球温暖化特別授業、春香クリスティーンさんのカーボンニュートラルトークセッション
- ・表 彰 者 環境とやま県民会議会長表彰（ごみゼロ・リサイクル：1団体、地球温暖化対策：2個人、1団体）

（2）環境教育・環境保全活動の推進

① エコライフ・イベントの実施

- ・主 催 県内10市、富山県、（公財）とやま環境財団
- ・内 容 地域での取組みを推進するため、県内10市において、地球温暖化防止やごみゼロなどのテーマに関する、「エコライフ・イベント」を実施した。また、構成団体ではブース出展等に積極的に参加し、エコライフの普及を図った。
- ・参加人数 13,916人

② 環境保全・環境教育に関する活動支援事業

- ・主 催 富山県、（公財）とやま環境財団
- ・内 容 （公財）とやま環境財団に環境保全相談室を設置することで各種相談に対応するとともに、県内で行われている様々な環境保全・環境教育活動について、ウェブサイト「エコノワとやま」を通じた情報を発信し、環境保全・環境教育活動の拡大を図った。（登録数：149団体）
また、エコライフの実践を促進するための普及啓発資機材の整備により活動支援の充実を図った。

③ とやま環境未来チャレンジ事業

- ・主 催 富山県、（公財）とやま環境財団
- ・実施時期 令和5年4月～12月
- ・内 容 10歳の児童が、地球温暖化や食品ロス等の環境問題を学び、目標を決めて家族とともに家庭での対策を実践・自己評価する取組みを通じて、環境に配慮したライフスタイルの啓発や家庭における地球温暖化対策の推進を図った。
また、地球温暖化対策や食品ロス削減などエコライフに関する副読本を県内全ての小学4年生児童に配布し、学校での授業及び実践活動を支援した。
- ・実施校数 年内全市町村 小学校 68校
- ・参加者数 2,854名

④ 地下水の守り人の活動支援

- ・主 催 富山県、(公財)とやま環境財団
- ・内 容 地下水保全活動を担う人材を「地下水の守り人」として登録するとともに、その活動を支援するため、講習会の開催や活動情報の発信、資機材の貸出しなどを実施した。
- ・登録者数 138 名（令和 6 年 3 月末現在）

⑤ スターウォッチング推進事業

- ・主 催 富山県、環境とやま県民会議、(公財)とやま環境財団
- ・実施時期 令和 5 年 8 月 4 日（金）
- ・内 容 大気汚染のない清澄な大気の大切さや街の明かりによる光害について理解を深めるとともに、身近な環境保全活動の実践を推進するため、富岩運河環水公園で星空観察会を開催した。
- ・参加者数 約 100 名

⑥ はじめてのエコライフ教室の実施

- ・主 催 富山県、(公財)とやま環境財団
- ・内 容 幼児期から（家族ぐるみで）エコライフの理解・実践・定着を図ることを目的として、幼稚園・保育所等に地球温暖化防止活動推進員を講師として派遣し授業を行う「はじめてのエコライフ教室」を実施した。
- ・実施時期 令和 5 年 6 月～10 月
- ・実施園数 12 園
- ・参加者数 幼児 389 名、保護者 97 名

（３）その他

① 各構成団体の取組みの把握

- ・主 催 事務局（(公財)とやま環境財団）
- ・内 容 各構成団体が県民会議とは別に独自で実施している取組み・事業（脱炭素・循環型社会づくり、環境教育・環境保全活動）について、照会調査を実施して把握し、県民会議や県民と情報共有するとともに、今後の県民会議の事業計画検討の資料とした。

② 各構成団体のデコ活に関する取組み状況について（アンケート調査）

- ・主 催 事務局（(公財)とやま環境財団）
- ・内 容 国では 2050 年カーボンニュートラル及び 2030 年度削減目標の実現に向けて、国民・消費者の行動変容、ライフスタイル変革を強力に後押しするため、新しい国民運動「デコ活」（暮らしを豊かにし、CO₂を減らす（Decarbonization）環境に良い（Eco）活動・生活のこと）を展開しており当構成団体 112 者にアンケート調査を実施した。
- ・回 答 数 28 件（25％）（詳細は、別紙 1 参照）